

汎用AIの頂上決戦と、日本の選んだ「別の戦場」

韓国発「Motif 3」の衝撃と、日韓のSovereign AI戦略の構造的比較



衝撃的なベンチマーク：オープンウェイト最前線への到達

GPU資源

NVIDIA B200
約768基
(政府供与)

パラメータスケール

総314B / 活性13.2B
(12.5兆トークン学習)

開発体制

約30人 / 約5か月

開発ルール

完全フロムスクラッチ
(海外の事前学習済み重み不使用)
MITライセンス

AAI v4.1.1
総合スコア
47

(米中以外の国家モデル首位相当 /
同クラス中央値27を大きく超過)

既存系譜からの脱却：Motif 3の独自設計コンポーネント

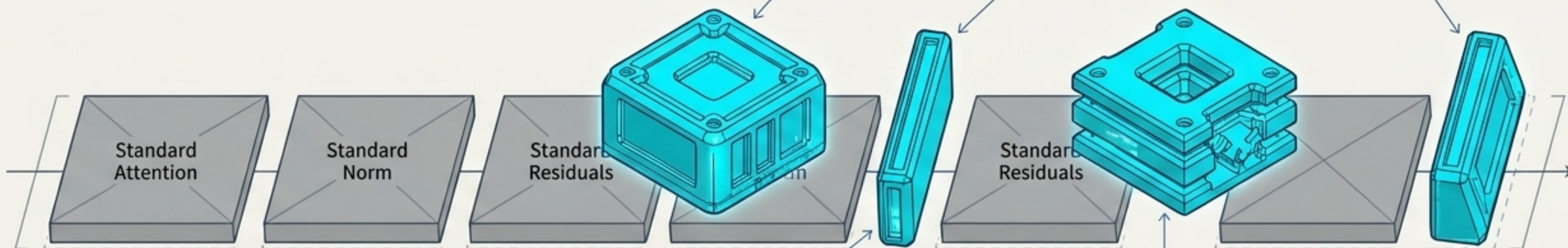
DeepSeekやQwenの模倣ではなく、
中核となるアーキテクチャを内製化。

GDLA (Grouped Differential Latent Attention)

MSのdifferential attentionと
DeepSeekの潜在KVキャッシュ
圧縮を融合。

Multi-Token Prediction ヘッド

別個のドラフトモデルなしで
自己投機的デコーディングを
実現。



Expert-Specific PolyNorm

エキスパートごとに独立学習される
多項式正規化。大規模モデルの
数値的不安定性を抑制。

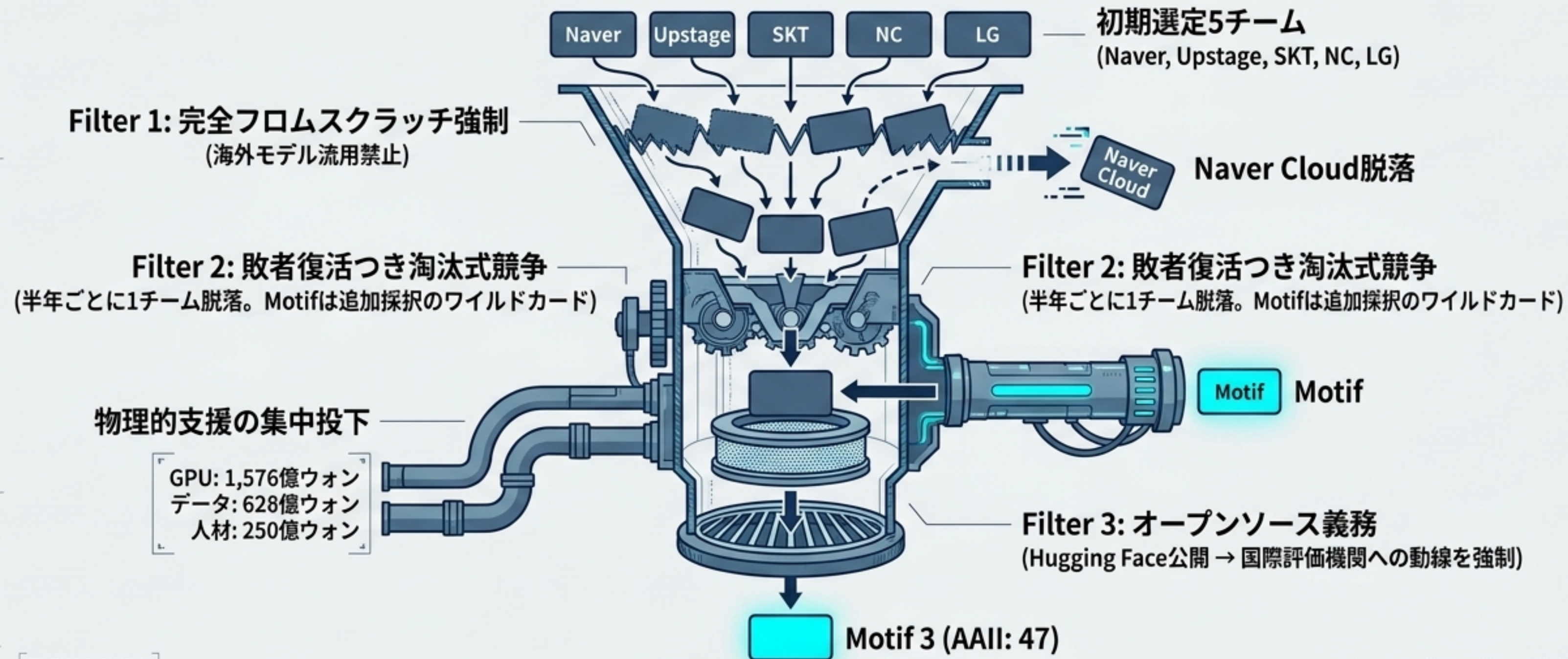
mHC (modified manifold- constrained hyper-connections)

4本の並列残差ストリームを
doubly-stochastic mixingで混合。

Multi-Token Prediction ヘッド

別個のドラフトモデルなしで
自己投機的デコーディングを
実現。

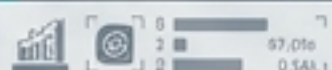
国家プロジェクト「独派模 (Dokpamo)」のエンジン設計



強制的な制約と現物支給による「フロンティアモデル生成エコシステム」の意図的構築。

国際リーダーボードにおける「日韓の非対称性」

Korea - 層の厚いエコシステム



AAII v4.1.1
(2026/08/13)

Motif 3 (Motif Technologies) — 47 pts



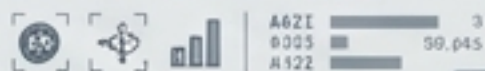
Solar Open 2 (Upstage) — 37 pts



A.X K2 (SK Telecom) — 35 pts

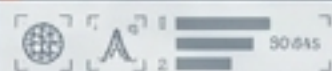


K-EXAONE 2.0 (LG AI Research) — 31 pts

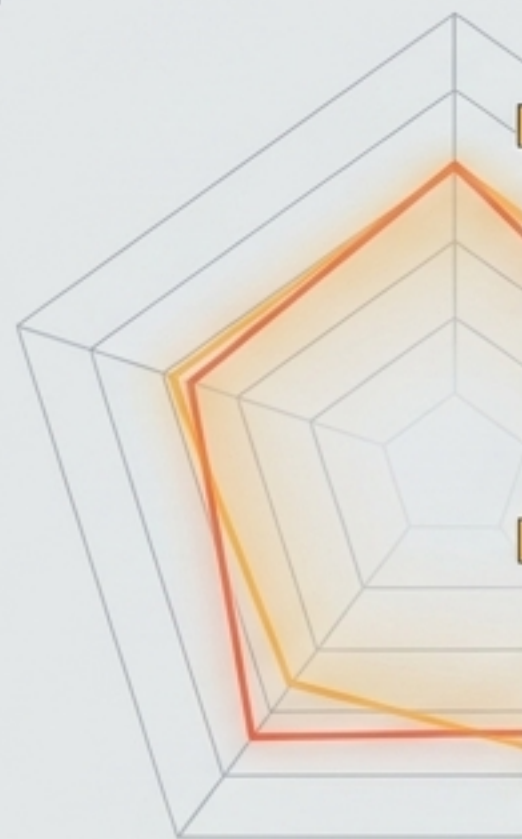


スタートアップから財閥まで、複数モデルがAAII国際水準に到達。

Japan - 評価対象モデルの不在



Nejumi Leaderboard 4
(2025/12/31)



Key Fact 1

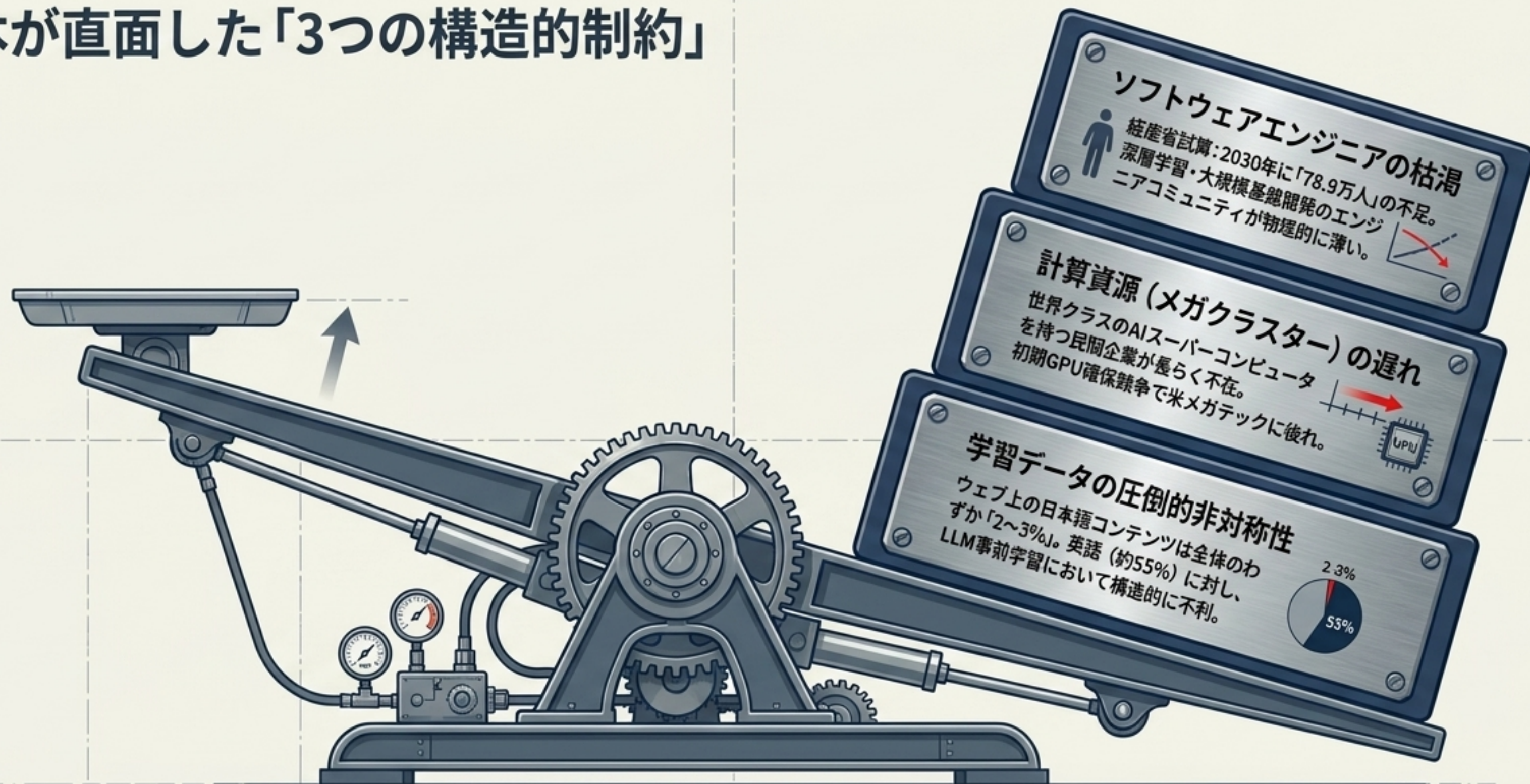
既存モデルの多くはLlama/Qwen等の「継続事前学習・ファインチューニング型」。数十B級にとどまる。

Key Fact 2

Nejumi Leaderboard 4（総合トップ50）に国産モデルは不在（rinnaが50位水準）。AAII等の「フロントティア級オープンウェイト」対象モデルが存在しない。

(rinna, ELYZA, ABEJA, S)

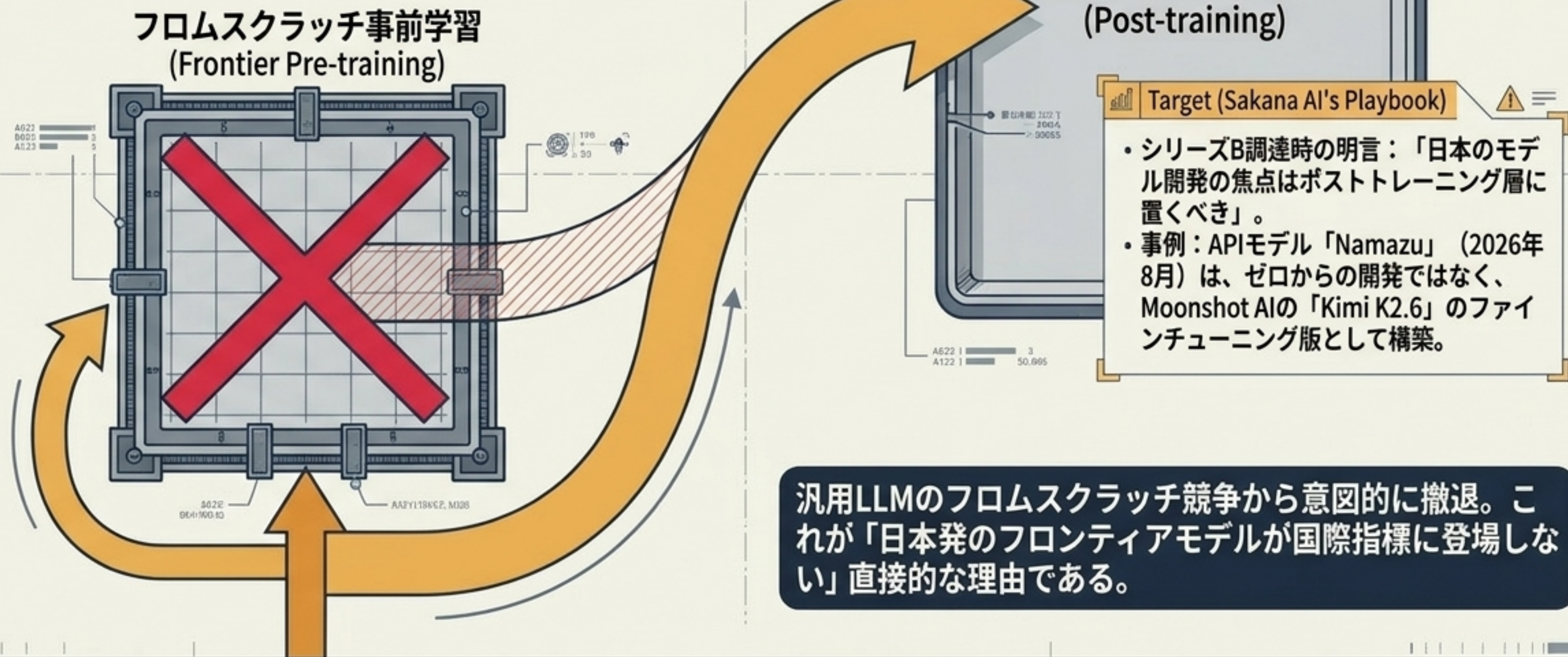
日本が直面した「3つの構造的制約」



GENIAC等の支援も行われたが、これら構造的重圧により、世界競争力のあるスケール（フロムスクラッチ）への到達は極めて困難であった。

戦略的撤退と資源集中：「フロンティア競争不参加」という合理性

制約下での最適解として、日本陣営は「戦う土俵」を意図的に変更した。



日本の反撃ベクトル：1兆円規模の「物理AI」コンソーシアム

Noetra & 産総研 コンソーシアム始動（2026年6月末）

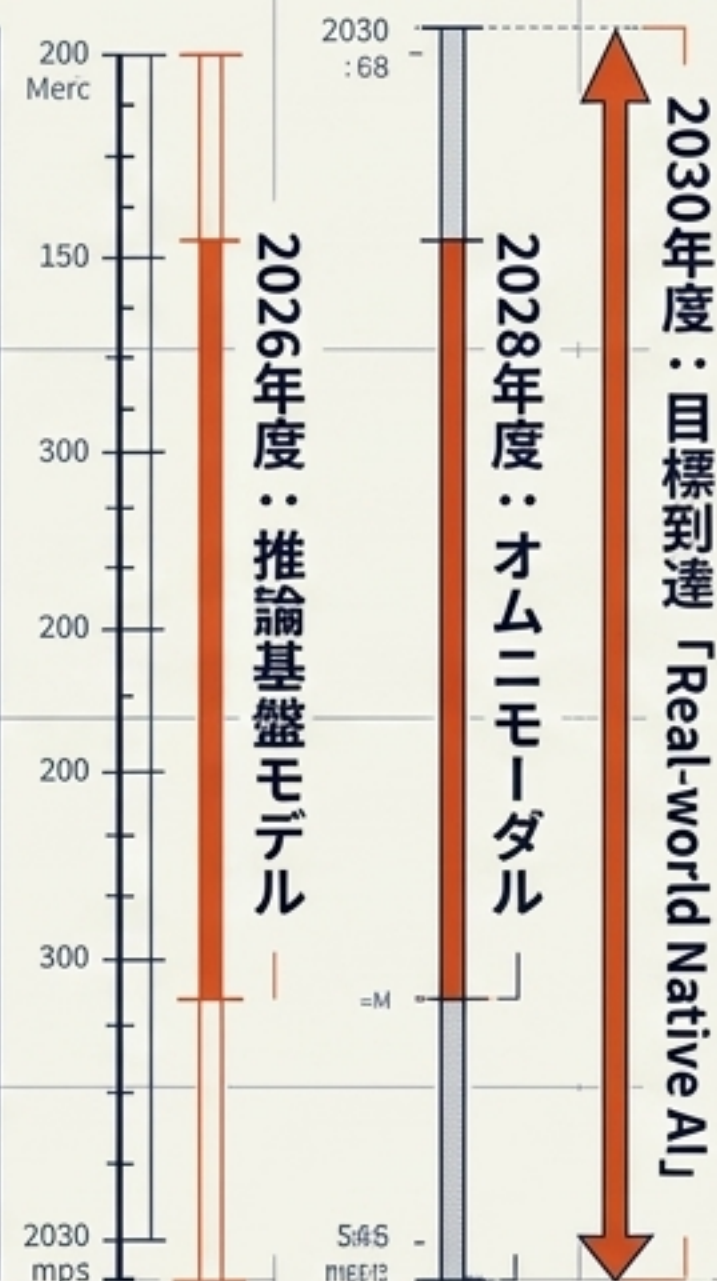
SoftBank

Sony

NEC

Honda

5年間で最大1兆円規模（初年度 3,873億円）。中核44社が結集。



ターゲットは「ロボット・物理AI向け」のマルチモーダル基盤。
AAIIのような汎用LLMリーダーボードでの順位戦は、最初から対象外 (Non-Target)。

The Sovereign Strategy Matrix : 日韓の差の本質

韓国 (Korea)

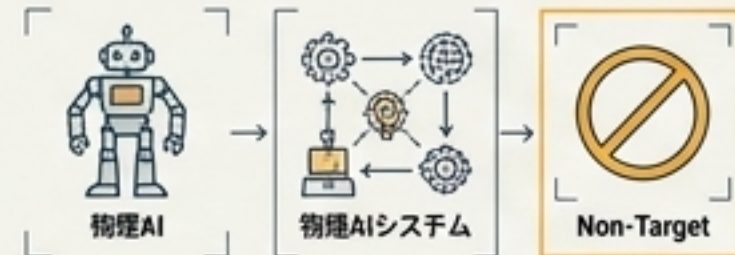
日本 (Japan)

国家の目標設定 (Goal)

汎用LLMの世界ラン
キング (AAIL等) 入りを
直接目標化。



物理AI・ロボット志向。
汎用LLMの順位戦は対
象外 (Noetra等)。

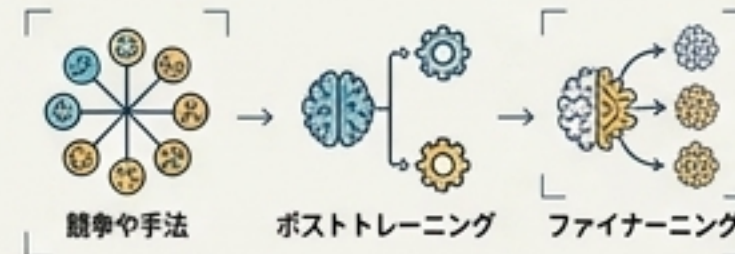


競争のルール (Rule)

淘汰式競争 +
フロムスクラッチ強制 +
オープンソース公開義務。



競争や手法の強制なし
(Sakana等はポストト
レーニング・ファイン
チューニングに特化)。

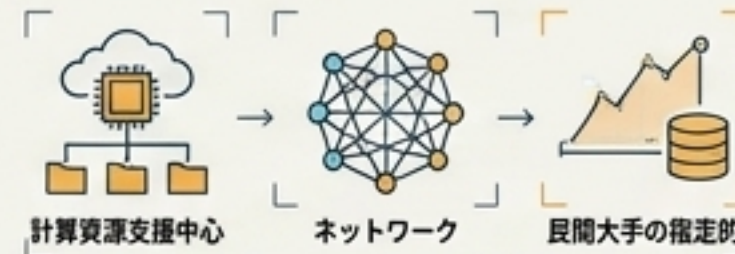


資源の投下手法 (Resource)

大規模GPU・データ・
人材の「現物支給」を
トップダウンで集中。



計算資源支援中心
(GENIAC等)。民間大手
の蓄積は限定的。



エコシステムの 起点 (Origin)

2021年頃からのNaver, LG,
SKT等の自前開発の蓄積と
インフラ企業の結集。



海外オープンベースモデル
の活用と適用 (Applied AI)
にリソースを集中。

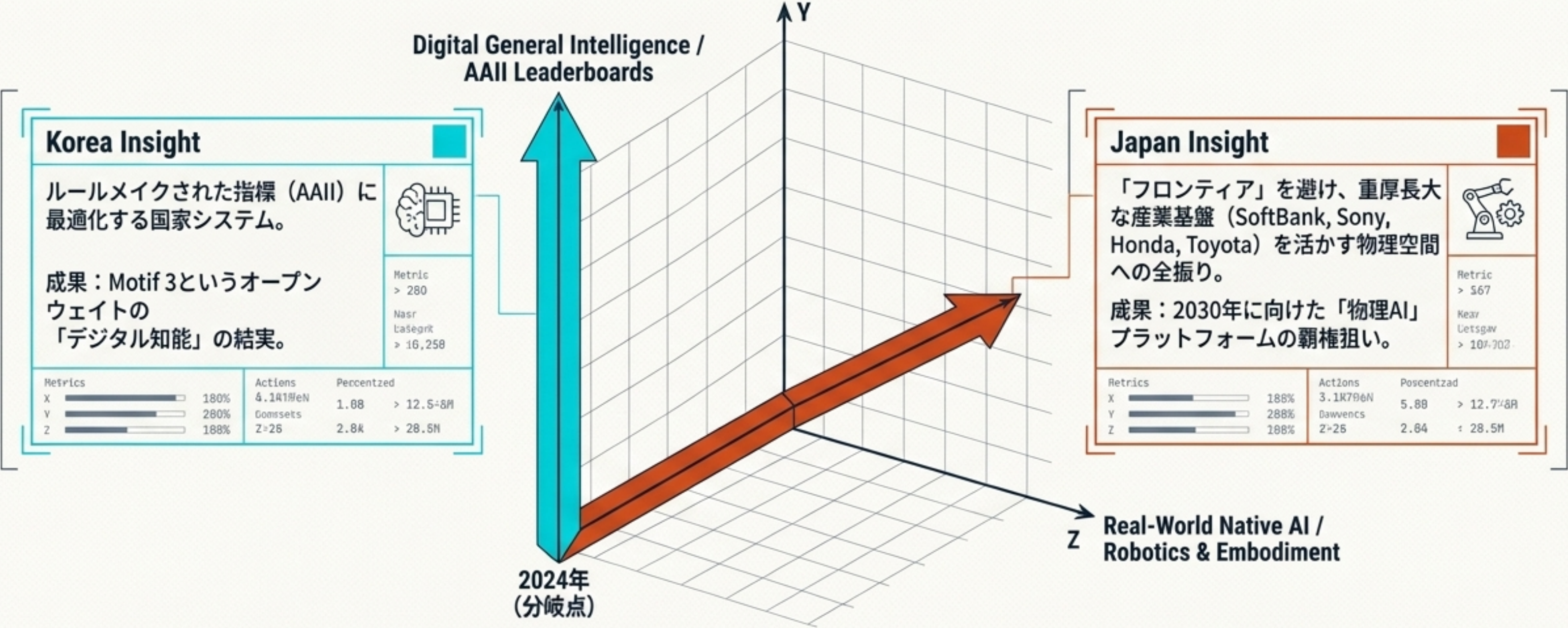


アクテックボード : wotric, metric
- ROSRLG : 3seenteliguna (top1 date-metric-ligan)
- NETHUSIS : Po2-wtan rolehead

5194006-53

MSTric <3rt

交わらない軌道：最適解としての「異なる戦場の選択」



Takeaway Banner

日本の現在地は「AI競争での敗北」ではなく、
「戦う次元（ディメンション）の意図的な切り替え」の結果である。

結論：Sovereign AIの多極化



1. ベンチマークの限界

Motif 3のAAI高スコアは韓国国家プロジェクトの完全な勝利を意味するわけではない。汎用知能指標は「能力の一部」に過ぎない。

2. 「独派模」の教訓

韓国が証明したのは、「フロムスクラッチと現物支給、徹底した競争設計」があれば、非米中枠からでもトップティアモデルが構造的に生み出み出せるという事実。

3. 日本の真の課題

日本をデジタルLLMの指標で測ることはカテゴリーエラーである。問われるべきは、Noetra等に投下される1兆円の資本が、2030年に「物理AI」という新大陸で本当に覇権を握れるか（Execution）の成否である。